

令和7年度学校評価（最終評価）

重点目標	学習に対する姿勢を整え、学力の向上を図るとともに、家庭や地域との連携を踏まえた学校教育活動全般の改善に努め、凛として清々しい個と品格ある校風づくりの確立を目指す。また、職員間の協力体制の在り方を検討し、勤務時間の適正な管理と教職員の適切なメンタルヘルスに努める。 1 家庭や地域から信頼される学校づくり 2 生徒の夢を実現できる学校づくり 3 品格ある校風づくり 4 教職員の健康維持に配慮した体制づくり		
担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	(1) 防災体制の構築と、防災意識の強化。	(1) 従来の防災避難訓練における反省を生かし、実態にあったものに変えていくとともに、市役所の協力のもと地域との連携を図る。	(1) 5月に全校による防災避難訓練を実施。7月の防災講話の中では、避難所運営についてのグループワークを行い、災害時の自分たちの行動について考えた。また10月には、地区防災会会長をお招きし、周辺地域における本校の役割について学んだ。
	(2) P T Aの連携の在り方の考察と推進。	(2) 学校行事へのP T Aの参画について話し合い、連携を強化する。	(2) P T Aの協力を得て、制限付きではあるが、Y U T A K A I・文化祭において保護者参観を実施した。これをベースに、来年度は体育大会での参観も検討していきたい。
教務部	(1) 校務支援システムの活用研究。 (2) 観点別評価の効果的な活用。	(1) 校務のスリム化に向け、校務支援システムのさらなる活用のための、マニュアルの作成等を検討する。 (2) 観点別評価の基準の研究をし、生徒の学習活動の活発化、学習効果へ結びつける。	(1) 校務支援システムのマニュアルを作成することで、校務のスリム化・効率化を進めることができた。その他の校務についても他分掌とも協力し、効率化を進めていきたい。 (2) 各教科において、観点別の評価・評定の基準を明確にすることができた。生徒の学習活動の活発化、学習効果へ結びつきについては、引き続き検討していきたい。
	(1) 生徒の進路目標の確立と実現に向けての指導。 (2) チームとしての進路指導の推進。	(1) 生徒の進路意識を向上させるため、日頃より進学に関する情報収集に努め、担任会等を通じて教職員との共有を図る。また、生徒の高い進路目標に向け、効果的な進路説明会や模擬授業の実施、基礎学力のさらなる定着を図る。 (2) 地域との連携を推進する。また、保護者向け進路説明会や保護者会を通して、保護者との連携を充実させる。	(1) 新課程2年目ということで、昨年度得た情報と今年度得た情報を共有して指導してきた。今後さらに複雑化していく進路指導に対応するしくみを構築していきたい。 (2) 地元にある豊橋創造大学の施設を利用して、3年生の离校日や課外、保護者向け進路説明会を行った。保護者向け進路説明会では本校卒業生のフィナンシャルランナーを招いて最新の情報を提供できた。今後も内容を検討していきたい。
生徒指導部	(1) いじめ防止対策。 (2) 高校生らしい身だしなみと交通安全意識の向上。	(1) いじめを防止するために、他の分掌と連携を密にして、全職員で取り組む。 (2) 各月の身だしなみ指導の設定と交通モデル及び自転車乗車ルールの遵守を図る。	(1) いじめ防止及びいじめ対応のために分掌・学年と連携を密にして取り組むことができた。 (2) 身だしなみ及び交通安全について定期的に生徒へ働きかけることができた。
	【特別活動】 (1) 生徒会を主体とした校内外の体験的な活動への積極的参加。	(1) 学校行事への取組意欲を高めさせ、生徒自身が積極的に行動するようにさせる。ボランティア活動への積極的な参加を促す。	生徒会執行部や各委員会の生徒を中心に、多くの生徒が主体的に行事に参加できた。また、生徒会の生徒を中心に積極的にボランティア活動に参加する生徒もいた。
情報研修部	(1) I C Tを活用した授業展開と校務での積極的な利用を進める。 (2) 次年度のBYOD生徒用タブレットについて検討を進める。	(1) 授業支援、校務支援のためのソフトウェアについて利活用を進める方法について研究する。 (2) 授業展開に最適なBYODの端末について各教科と協議を進め、適切なものについて考える。	(1) ICT 支援員に來校いただいた際に、ロイロノート、動画編集、Copilpt などに関する講習会を開催し、教員の活用能力向上に努めた。 (2) 全職員アンケートを実施し、適切な端末を選定した。
	(1) 生徒保健委員会活動の活発化。 (2) 生徒全体の健康や清掃に対する意識の高揚。	(1) 教室の換気や手洗い徹底させ、感染症予防を図る。また、非常災害における防災意識の向上と個人で出来る準備を図る。 (2) ゴミの分別の徹底およびゴミの減量化を図る。また、環境美化に努める。	(1) 保健委員が中心となり、換気・手洗いの奨励など感染症予防を行うことができた。また、文化祭を利用して、防災意識（自助から共助）の意識向上を図ることができた。 (2) H R での奉仕作業を通して学校全体で環境美化に取り組むことができた。

	<p>【教育相談・特別支援教育】</p> <p>(1) 教育相談および支援が必要な生徒の情報の共有化と早期の対応。</p>	<p>(1) 欠席の多い生徒の情報を収集し、早期に対応する。相談室の利用を促進する。スクールカウンセラーとの連携を密にする。</p>	<p>(1) 欠席数や学校生活の様子から、教員間の情報共有を図ることにより早期に対応することができた。また、スクールカウンセラーについても有効に活用することができた。</p>
生活文化科	<p>(1) 各コースの特性を活かした魅力ある授業内容の精選。</p> <p>(2) 地域と連携・協働したスペシャリストを目指す生徒の育成。</p>	<p>(1) 各コースの特性に応じた実践的・体験的授業の充実を図り、資格取得を目指す。外部講師による講習会を実施し、より専門的な知識・技術の確実な習得を図る。</p> <p>(2) キャリア教育の充実を図り、社会人・職業人として必要となる基礎的・汎用的能力を身につけさせる。インターンシップにおいて、事前・事後の学習に力を入れ、成果発表会を実施し、生徒のキャリア形成と関連づけさせる。</p>	<p>(1) 第1学年から基礎的・基本的な知識・技術の定着を図り、第2・3学年では、より高い学習目標の達成を目指し、外部講師による講習会の内容を見直し実施し、資格取得に結びつけることができた。</p> <p>(2) 高大連携事業やインターンシップ、進路ガイダンスを積極的に活用し、キャリア教育の充実を図った。学年に応じた進路研究の機会を設定し、生徒の意欲的なキャリア形成を促すことができた。</p>
第1学年	<p>(1) 主体的に活動（授業・行事・部活）に取り組む</p> <p>(2) 基本的な生活習慣と規律・礼儀の育成</p> <p>(3) 見通しのもてる進路指導</p>	<p>(1) HR、行事、部活で仕事を担い、全うする。授業に参加する意義を考える、係の仕事をきちんと確認させる。</p> <p>(2) 生活指導の徹底。校則の周知、身だしなみ指導、清掃指導、教室の整理整頓、挨拶を呼びかける。</p> <p>(3) 1年間、3年間をとおした学習計画・進路指導の流れを示す。</p>	<p>(1) HR、行事、部活で生徒が主体的に活動することができた。授業への取り組みは、おおむね意欲的であるが、家庭学習の習慣を身につけることが今後の課題である。</p> <p>(2) 規則の周知はできており、校則はおおむね順守できた。</p> <p>(3) 3年間の学習と進路の計画は示すことができた。生徒が目的意識をもって学習や進路選択ができるようになることが今後の課題である。</p>
第2学年	<p>(1) 将来を見据えた進路意識の確立と学習習慣の定着</p> <p>(2) 自律と協働を重んじる学級・学年づくり。</p> <p>(3) 社会性を育む常識ある行動と言動の実践</p>	<p>(1) 家庭学習の習慣化を促し、進路選択の準備をする。</p> <p>(2) 他者と協力しながら、自ら行動する力の育成。</p> <p>(3) 社会的視野を広げ、社会の一員としての自覚を養う。</p>	<p>(1) 授業態度もおおむね良好で、課題への取り組みも向上した。長期休暇に進路研究の課題を主体的に取り組み将来に向けていい準備ができた。</p> <p>(2) 修学旅行で自分たちが決めたルールの中で最大限楽しむことができた。</p> <p>(3) 行事や校則を理解し、社会へ出て主体的に活躍できるような意識づけができた。</p>
第3学年	<p>(1) 社会人としての基礎力の確立。</p> <p>(2) 個人の能力伸長と進路目標の実現。</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣と規範意識を確立させる。社会性や公共心を育成する。</p> <p>(2) 学力を充実させ、進路目標を実現させる。特別活動に積極的に取り組ませる。</p>	<p>(1) 学校行事や普段からの生活習慣から、社会へ出て活躍できるように意識して指導してきた。</p> <p>(2) 進路実現を最大目標に、それぞれの進路に向けて、努力することはもちろんのこと、深く探求することも意識させてきた。</p>
学校関係者評価を実施する主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭や地域から信頼される学校づくりを目指した方策と実践について ・ 特色ある学校づくりとともに、地域との連携について ・ 学校いじめ防止基本方針に基づく取組について ・ 在校時間等の状況記録の結果を活用し、業務の適正化を図るとともにストレスチェックの結果の活用等を通じて教職員の確実・適切なメンタルヘルスの保持に努めることについて 		